

## 福知山市商工会 企業業況調査

令和8年4月調査結果(令和8年1月～3月分 調査対象 74件) (令和8年5月公表)

### ■調査対象

業種/従業員数	事業主のみ	2～4人	5～9人	10～19人	20～29人	30人以上	合計
建設業	3	7	5	2	2	0	19
製造業	0	9	4	7	0	1	21
卸小売業	6	6	0	2	0	0	14
サービス業	7	10	2	1	0	0	20
合計	16	32	11	12	2	1	74

#### 【経営動向DIの算出方法】

「良い」とみる割合(%)から、「悪い」とみる割合(%)を引いてDIを算出  
(「良い」と「悪い」の割合が同じ場合、DIは「0」)

※(製造業・建設業)グループと、(卸小売業・サービス業)グループに分類して集計をしている。

### ■経営動向

#### ○製造業・建設業

	前年同期比		向こう3ヶ月	
	今回	前回	今回	前回
売上	-32.5	-22.5	-27.5	-27.5
採算	-30.0	-27.5	-40.0	-25.0
仕入単価	-72.5	-57.5	-77.5	-57.5
従業員数	-10.0	-17.5	12.5	10.0
資金繰り	-25.0	-17.5	-35.0	-15.0
業況	-35.0	-25.0	-45.0	-27.5

#### 製造業・建設業

★前年同期比・・・前回調査と比較して経営環境は一層厳しさを増しています。売上DIは-22.5から-32.5へ、採算DIは-27.5から-30.0へと悪化し、仕入単価は-57.5から-72.5へと再び上昇圧力が強まりました。資金繰りDIも-17.5から-25.0へと悪化しており、キャッシュフローの逼迫が現実的な問題として浮上しています。従業員数DIは改善していますが、受注水準に合わせた雇用調整が一段落した結果である可能性が高く、前向きな改善とは言い切れません。製造業ではコスト上昇、建設業では資材高騰と2024年問題対応が重なり、受注しても利益が残りにくい構造が定着しつつあります。

★向こう3ヶ月・・・業況DIが-27.5から-45.0へと大幅な悪化が見込まれ、採算DIも-25.0から-40.0へと悪化予測が強まっています。特に資金繰りDIの見通しが-15.0から-35.0へと急悪化しており、資金ショートリスクが高まる事業所の増加が懸念されます。早期の資金相談体制整備が急務です。従業員数見通しは+12.5を維持していますが、採算が悪化する中での人件費増はコスト負担を一層重くするジレンマも抱えています。

#### ○卸小売業・サービス業

	前年同期比		向こう3ヶ月	
	今回	前回	今回	前回
売上	41.2	-44.4	41.2	-50.0
採算	38.2	-61.1	38.2	-55.6
仕入単価	-79.4	-52.8	-76.5	-57.1
従業員数	-2.9	-8.3	2.9	0.0
資金繰り	-32.4	-33.3	-29.4	-37.1
業況	-50.0	-47.2	-50.0	-57.1

#### 卸小売業・サービス業

★前年同期比・・・前回調査から経営環境が大幅に悪化しています。売上DIは+41.2から-44.4へ、採算DIは+38.2から-61.1へと急転直下し、仕入コストを売価に転嫁できないまま利益が消えていく状況が鮮明です。採算DIの悪化幅は製造業・建設業(-30.0)の倍以上であり、消費者に近い業種ほどコスト転嫁の壁が高いことを示しています。資金繰りDIも-33.3とほぼ横ばいながら、採算急落の中での横ばいは「ようやく持ちこたえている」状況であり、予断は禁物です。

★向こう3ヶ月・・・見通しは極めて厳しく、業況DI(-57.1)は調査全体で最も深刻な水準です。売上(-50.0)・採算(-55.6)ともに大幅なマイナスが続く見込であり、消費マインドの冷え込みと価格競争の激化が続くと見方が多数を占めています。小売業では節約志向による価格転嫁困難が続き、サービス業では人件費上昇と需要の不安定さが重なり採算確保が難しい状況が継続する見込です。

全業種において厳しい経営環境が継続しており、特に今期は卸小売業・サービス業の急激な悪化が際立っています。

仕入単価の上昇圧力は製造業・建設業で-72.5ポイント(前回-57.5)、卸小売業・サービス業で-76.5ポイント(前回-79.4)と高水準のマイナスが続いており、原材料・商品仕入コストの高止まりが経営を圧迫する主要因であることには変わりはありません。最も深刻なのは採算の急落であり、卸小売業・サービス業の採算DIは前回+38.2から今回-61.1へと約100ポイント近い急落を記録し、価格転嫁の限界が臨界点を越えつつあることを示しています。向こう3ヶ月の見通しについても、両セクターともに業況のさらなる悪化が予測されています。

### ■今期直面している経営上の問題点(業種別上位5項目 項目の後の()は前回順位(同順位あり)、業種の後の数字は回答数)

	製造業(48)	建設業(51)	卸小売業(40)	サービス業(42)	全体(181)
1位	仕入単価の上昇(4) 22.9%	仕入単価の上昇(1) 31.4%	仕入単価の上昇(3) 20.0%	仕入単価の上昇(1) 33.3%	仕入単価の上昇(1) 27.1%
2位	経費の増加(3) 18.8%	経費の増加(2) 17.6%	需要の停滞(1) 17.5%	経費の増加(2) 14.3%	経費の増加(2) 14.9%
3位	設備不足(2) 18.8%	人件費の増加(3) 11.8%	事業資金の借入難(4) 10.0%	設備不足(3) 14.3%	設備不足(5) 12.2%
4位	人件費の増加(1) 14.6%	需要の停滞(5) 11.8%	従業員の確保難(5) 10.0%	消費者ニーズの変化(-) 11.9%	需要の停滞(3) 11.0%
5位	従業員の確保難(5) 8.3%	従業員の確保難(4) 9.8%	人件費の増加(-) 7.5%	同業者の進出(-) 7.1%	人件費の増加(4) 9.9%

全業種共通で「仕入単価の上昇」(全体27.1%)が最大の経営課題として君臨し続けています。これに「経費の増加」(14.9%)、「設備不足」(12.2%)、「需要の停滞」(11.0%)、「人件費の増加」(9.9%)が続きます。注目すべき変化として、サービス業で「消費者ニーズの変化」と「同業者の進出」が新たにランクインしています。これは価格競争だけでなく、消費者の行動変容(オンラインへの移行、体験型消費へのシフト等)への対応が迫られていることを示唆しており、コスト問題の陰に隠れながらも構造変化への適応が中長期課題として浮上しています。

この調査は、福知山市商工会会員事業所を対象として、景気判断や経営動向等を明らかにし、売上向上を目指した事業計画の策定、販路開拓や商品開発、事業承継、経営改善等経営力向上を推進する基礎資料として活用することを目的に実施しています。

次回は令和8年4月～6月の状況について、令和8年7月に調査する予定です。商工会の経営支援員が調査にお伺いしますので、調査対象の事業所様には引き続きご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。